拓水

TAKUSUI
1
2006年 January
No.591

平成18年 年頭挨拶

ウチの漁協！ JF岩見

CONTENTS

2 旬に想う
マークと標識

表紙の言葉

3 年頭挨拶

7 兵庫JCC通信

8 JFグループ兵庫組織強化構想の取り組みについて

9 行事予定

TOPICS
平成17年度 兵庫県JF役職員研修会開催

兵庫県からのお知らせ
「ひょうご農林水産ビジョン2010の見直し」への意見募集

10 ウチの漁協
JF岩見

旬に想う

写真と文 遊方子

マークと標識

◆年頭に、聞き耳を立てている犬に登場願った。軽井沢で撮った置物である。昭和四十年代に起きたデパート火災では、多くの人命が失われたが、それを契機に《非常口》の表示が重要視され、国際的に認められる「人が駆けている緑色の形」が、公共の建物に必ず見られるようになった。マークやサインは、ひとことで言えば記号である。交通標識や施設の案内、会社や商店のロゴマークまで入れると、私たちの周囲は実に記号に溢れている。記号に取り巻かれた暮らしだとも言える。生活に直接必要なマークやサインは、知識として知っていなければならないが、JISにある病院や救護所の記号など、どれだけの人が判っているだろうか。周知されていなければ急場に役立たない。

◆マークでは色彩も重要である。新生児が初めて知る色は《赤》だというが、赤色は人目を引きつけ、力強さが感じられる所から《危険》や《禁止》を表すために使われる。車を運転中、赤色が見えたら禁止サインだと即行動をとるのが望ましいのに、赤信号で交差点へ進入する車がおり無謀さに驚く。赤の対極にある緑色は、穏やかさをイメージする色で、精神を安定させる作用もあり、救急・救難・救援に関する施設表示に使われている。道路上に白色表示の《菱形マーク》があり何を表すのか。アンケートで半数の人が意味を知らなかった。正解は「横断歩道あり」だが、安全のための表示も一般に浸透していなければ、唯の落書きになって仕舞う。

◆何処の国でも共通するのが、○が肯定を意味し×は否定を表すことである。手話が不得手でも《親指》が男性を表し《小指》が女性を意味することは知られている。その他、指による記号表現では、人差し指と中指で○を作れば金銭の意、嬉しい時のVサイン、ヒッチハイクで車を止めるサインがある。交通標識の内、赤丸に斜線を入れて禁止を表すのはナゼだろうと、長い間の疑問だった。調べてみると、それは《NO》のNからの発想で、Nの立て棒をウーンと延ばして丸くしたものと判って、完璧に疑問は氷解した。企業のロゴマークでは岩波書店のものが気に入っている。創業者の発案で、ミレーの「種を蒔く人」を元にしたという。それには文化の種を蒔くという意味を込めたとあり、大いに称賛したいのである。

◆《赤十字》のマークは、国際赤十字の創立者デュナンの提唱で生まれたが、デザインはスイス国旗の転用ともいわれている。このマークの使用には法的制限がある。安易に使われると単に医療機関や病院のマークと誤解されたり、戦争時の傷病者保護の標識だとの認識が薄れ、活動に支障を来たすというのだが、この十字がキリスト教をイメージさせるため、イスラム教の諸国は《赤い三日月》を使っている。しかし赤新月はイスラムの象徴とも見られるため、救急活動者が攻撃対象になったりした。そこで本年の赤十字締約国会議で、宗教的な中立国向けに「ひし型」を追加承認したという。マークを表示することで、人命が危機に晒されたり命が守られたりする。実に奇天烈な話ではある。

表紙の言葉

～香住東港にて～

全国で記録的な積雪に見まわれております。

但馬の港ではイカ釣り漁船もご覧の通り。

残念なことに、昨年は

漁船事故が多発した一年となりました。

本年こそは豊な海・安全な海で

ありますように…

兵庫県漁業共済組合

平成18年　丸一会長 年頭挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会　代表理事会長　丸一芳訓

明けましておめでとうございます。

新春を寿ぎ、県下漁協、並びに組合員、又、系統団体の皆様方に、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

正月の門松は歳神を迎えるための憑代であります。常緑の松は強い生命力の象徴であり不老長寿の象徴といわれています。この門松に歳神が宿っており、神の宿る聖なる場所として、俗界との境界に注連縄を張るのが正月の注連飾りの原型であるといわれています。

古来より、祭祀にはそれぞれ意味があるものであります。我々の組織改革についての一挙一動は、希望ある生活の実現に向けて、意味のあるものとしていかなければなりません。

元旦とは、旦の字より地平線に日が昇ること、元は始まりとして、一年の始まりの日ということでありますが、今年は、全ては漁業者の幸せ「オール水産」を旗印に、県下漁民・JF・系統団体が心を一にして、「新しい経済事業体（経済事業改革JF）」について、話し合いを始める記念すべき年となります。

昨年来より、燃油の異常な高騰による漁業経営への圧迫、大型クラゲの大量発生等の漁具・漁獲物被害、海苔の色落ち問題、また、輸入水産物の大量流入による国内産魚価が低落するなか、WTO問題等も予断を許さない状況で、漁業経営は今後も大変な厳しさが継続していくことが予想されます。

本県においても漁獲量の減少や魚価安等が続いており、地域漁業の中核として漁業者の生産活動を支えてきたJFは、危急存亡の事態に直面しております。また、系統団体においてもJF運営の厳しさを反映し、まさに、生き残りをかけて抜本的経営改革を迫られているといえます。

健康で豊かな食生活に欠かすことのできない水産物を将来にわたって安定的に提供するため、我々漁業者の存在は、第一次産業従事者としてますます重要なものとなってまいります。

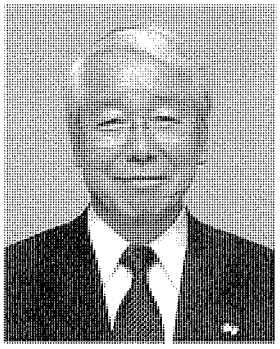
我々も国民の負託に応えられるよう、資源・環境を守り、豊かな海の恵みを次世代へつなぐために、いかにしても漁業の歴史・伝統は守り抜き、継承していかなければなりません。

今、JF組織は新たな改革が求められる中、地域的な風習や習慣にとらわれることなく、英知を結集し、大同団結のもと、JFグループ兵庫の事業・組織・経営を根底から見直し、最大のメリットを漁業者に提供できる事業体、全てのJFと系統が一体となる、「経済事業改革JF」の誕生を目指さねばなりません。改革に向けて日夜を分かたぬ努力が必要であります。

本年は、皆が自信を持って元気に、明るく取り組み、本県漁業者の地位の向上と、本県JF組織の新たな成長の第一歩を記す一年にしようではありませんか。

本年が、皆さまにとって、健康で喜びと幸せに満ちた一年となりますことを心からお祈り申し上げます。

兵庫の強みを生かす



兵庫県知事　井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。

平成18年が始まりました。今年は国体が開催されます。

震災復興に寄せられた多くの支援に感謝を込めて、全国の人々を温かく迎え、県民あげて元気な兵庫を発信していこうではありませんか。

兵庫の広大な県土には、様々な風土や文化、生活があります。

進取の気性に富み勤勉で独創的な人々、世界水準のものづくり産業や地場産業、自然の恵みを生かす農林水産業、高度な教育機関や豊富な文化資源、全国有数の交通基盤と利便性の高い都市機能、豊かな自然環境など、多くの可能性に満ちています。

大震災からの復旧復興に結集された人々の英知と努力は、どのような課題も克服していく大きな力になりました。ボランティア活動の広がりや住宅再建共済制度などの先導的な取り組みも、内外から注目を集めています。

多様性と個性。これこそが兵庫の特色、全国に誇る強みではないでしょうか。

コウノトリの野生復帰が進み、神戸空港などの交通基盤も整い、スプリング8など産業支援も充実します。

私は、大空に、そして世界に羽ばたく兵庫を心に描き、その強みを最大限に生かして、元気な兵庫づくりに全力を注ぎます。

県民生活の安全と安心の確保。

人、産業、地域の元気づくり。

分権社会の新たな自治の確立。

「参画と協働」を基本に、成熟社会にふさわしい兵庫、美しい兵庫をともにめざしましょう。

心から感謝をもとに立ち上がる

故郷兵庫 豊かな地域

年頭のご挨拶

兵庫県信用漁業協同組合連合会
代表理事会長
吉野生壯

新年明けましておめでとうございます。

平成18年の年頭にあたり、会員ならびに組合員の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

昨年を振り返り、本県漁業情勢は、瀬戸内海地区においての海苔養殖は、回復基調で例年並みの水揚げができました。船びき網漁業では、チリメン漁が例年にない不漁に見舞われましたが、春先のイカナゴは好調な水揚げでした。但馬地区におきましても、全体では好調な水揚実績を揚げられましたが、水産系統におきましては、燃油高騰が一段と進む一方、相変わらずの魚価安が続く厳しい状況の年でもありました。

このような状況の中、全県統一運動「もっと知ってネ JFマリンバンク運動」を実施し、会員、組合員および系統諸団体より一層のご協力をいただくとともに、座談会等への参加により女性部との連携を強化し、系統信用事業の原点に立ち返った運動を積極的に展開することにより、資金量の増大並びに融資の拡大に努めてまいりました。

また、昨年12月には、最後の信用事業実施2組合の統合を完了し、平成9年10月に統合第1号店として明石浦支店がオープンして以来、9年をかけて念願の「一県一信用事業統合体」を完成させることができた年でありました。この場をおかりし関係各位のご理解ご協力にお礼申し上げます。

本会の経営状況におきましては、「経営改善計画」の第三年度として、自己資本の増強・人件費の計画的削減を柱とした事業管理費の圧縮と資金運用の効率化等に努めておりますが、統合体完成により見直しを行い、一段の財務の健全性確保を図り、さらなる事業展開を進めてまいります。

これまで以上に難しい局面が予想されますが、漁業者等利用者にとって安全・安心な貯金の預入先であること、漁業者等利用者が必要とする資金について低利で安定的に供給できる金融機関であることが本会の最大の役割であることを再認識するとともに、真に漁業者等利用者の負託に応える事業を行う「安心・安全のJFマリンバンク」構築を目指し、JFマリンバンク基本方針に基づく一県一信用事業責任体制のもと、信用性の向上を目指した体制整備を図っていくため役職員一丸となって努力してまいりますので一層のご支援・ご愛顧をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本県水産業のさらなる発展と皆様方のご健康ご多幸を心よりご祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶

兵庫県漁業共済組合
組合長理事
吉岡修一

新年明けましておめでとうございます。

平成十八年の年頭に当たり謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて、近年の漁業状況は、全国的に引続く魚価の低迷や漁業資源水準の低下による漁獲金額の減少、頻発する自然災害に伴う漁業被害の発生、特に最近では漁業燃油の急激な高騰等により、漁業経営が圧迫され誠に厳しいものとなっております。一昨年は、観測史上最多となる十個もの台風の上陸により全国各地で多大な漁業被害を受け、昨年の上陸数は大幅に減少したものの、台風十四号等による被害は少なくありませんでした。加えて秋口からは、本県の主要漁場であります日本海海域で大型クラゲが大量に来遊し、特に但馬地区の底びき網漁に甚大な漁業被害をもたらしております。

このような状況下、浜の漁業者、漁協系統、関係者の皆様方からの「ぎょさい」に対する期待と関心はますます高まってきております。平成十六年度におきましては、のり養殖業の色落ち被害の発生等により、全事業合せて過去最高の九億七千万円を超える共済金が支払われました。漁業経営対策や災害対策としての機能を発揮することができたと自負するとともに、不慮の災害に備えて十分な対応ができるよう更なる「ぎょさい」の加入拡大に取り組む必要性を改めて痛感し、更なる取り組みを強化した結果、今年度ののり漁期では、特定のり養殖共済で新たに二漁協の新規加入が実現いたしました。

しかしながら県下では、特定のり養殖共済には未加入の漁協が残っていること、瀬戸内海地区における底曳網漁業や船曳網漁業の加入率は依然として低水準であること等を考慮すると、残念なことに「ぎょさい」に未加入のため、その期待に応えられないケースが出てきます。

私ども「ぎょさい」に携わる者としては、自然災害対策はもとより漁業経営のセーフティネットとしての「ぎょさい」をこれまで以上に普及拡大させることに全力で取り組んで参りますが、皆様におかれましても「ぎょさい」の積極的な活用をお願い申し上げます。

一方、本年は、平成十四年度より展開して参りました「新ぎょさい総加入運動21」四ヶ年全国運動が三月末をもって終了いたします。この間全国運動に呼応して、未加入漁協の解消や補償力のアップを図るために、説明会等を随時開催し「ぎょさい」の普及啓発に取り組み、新規加入の実現等の成果を得ましたが、その結果を踏まえ、本年四月より新たな四ヶ年の全国運動を展開する予定となっております。本県といたしましても新たな全国運動に呼応して、「ぎょさい」の果たす役割を十分に発揮させるため積極的活用の呼びかけを行い、漁業者全員の「ぎょさい」加入を目指すことにより、漁業経営の後ろ盾として新たな漁業と漁村づくりにますますの貢献ができますよう努力していく所存ですので、ご支援ご協力いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本県水産業の更なる発展と皆様方のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げ年頭のご挨拶といたします。

新しい年を迎えて

兵庫県農林水産部
農林水産局水産課長
楠本正博

あけましておめでとうございます。

皆様には、清々しく新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

新しい年が希望に満ちた一年となりますよう、心からご祈念申し上げます。

昨年は本県の漁協組織強化において、新たな改革がスタートした年となりました。〝漁業者のしあわせの実現〟を目的として、現在の県漁連、漁協という県内二段階の組織を一本化するという「JFグループ兵庫組織強化構想」が新たに策定され、今後、その実現に向けた取組みが本格化します。

一方、従来から協議を進めている但馬地域の合併についても、いよいよ正念場の年となります。実現に向けて関係者の皆様の一層のご努力をお願いします。

また、漁協信用事業については、昨年十二月の二漁協の統合により、平成九年以来、八年余を経て一県一信用事業統合体の構築が完遂を迎えました。これも関係者のご努力によるものと敬意を表する次第です。

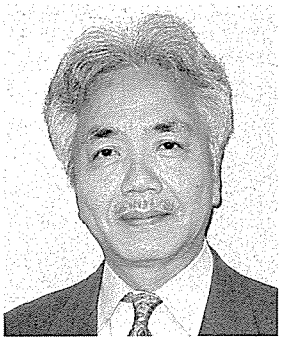
組織強化の最大の目的は、漁業者が安心して操業できる組織や体制をつくることであると考えておりますので、県としましても、こうした取組みに対し、積極的に支援していきたいと考えております。

さて、漁業操業の面では、昨年は三月下旬にノリ色落ち被害が発生し、これが回復しないまま漁期を終了しました。また、日本海でも大型クラゲが大発生しました。これらの現象には漁場環境の変化が大きく影響しているといわれていますが、かねてから取組みを進めている瀬戸内海の環境保全と合わせ、県漁連と協働して関係機関に働きかけを行い、豊かな漁場の再生を目指していきたいと思います。

一方、国際的な原油高の中、昨年一月以来二十円近くも燃油価格が上昇し、経営を大きく圧迫する状況が続いています。価格の下落の気配が見えない中、より省エネルギー、低コストに配慮した漁業への転換が求められています。県としても、国や漁協系統団体と連携し、協業化やコスト削減に向けた取り組みを検討して参りたいと考えています。

いずれにいたしましても、漁業は自然産業です。自然の恩恵に感謝しながら、今年も海の幸に恵まれますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

新春を迎えて



兵庫県農林水産部
農林水産局漁港課長
澄田泰造

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、ご家族お揃いで清々しい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、一昨年とは打って変わり、災害の極めて少ない穏やかな年であったと言えるのではないでしょうか。ありがたいことです。とりわけ海という自然を相手に―いや「相手に」などという傲慢な姿勢ではなく―海という大自然のふところの中で仕事をしている我々は、台風や異常潮位、また異常気象などの天災が無いことに深く感謝し、それを無上の喜びと感ずるべきなのかもしれません。

そんな穏やかな一年ではありましたが、阪神淡路大震災からちょうど十年という節目の年であることから、本県の漁港漁村の復興の状況を全国の漁業関係の方々に見ていただくとともに、当時の支援や励ましへの感謝の気持ちを伝える機会として、第五七回の全国漁港漁場大会を兵庫県でお受けいたしました。

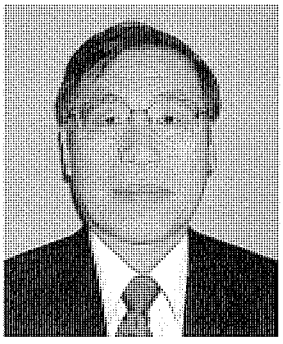
大会では森県漁協女性連会長が静まり返る会場で大会アピールを凛然と読み上げられ、また感謝の集いでは丸一県漁連会長が力強くも厳かに復興支援者への感謝の言葉と漁業者の熱い思いを述べられましたが、いずれも全国の漁業者の胸に深く訴える内容でありました。おかげさまで大会は盛会裡に終えることができ、主催者である全国漁港漁場協会から、近年開催した大会の中でも屈指の素晴らしい大会だったとお褒めの言葉をいただきました。これも偏に早朝より県下各地から大会に参加いただいた方々、漁港視察で全国の漁業者の対応をしていただいた方々のご協力の賜物と感謝申し上げる次第であります。

私どもは、漁港の整備と管理を預かる者としてこの大会の内容を真摯に受け止め、今後の漁港行政に生かしていかねばならないと肝に銘じたものであります。

現在、平成十九年度を初年度とする次期漁港漁場整備長期計画の策定に向けた作業を進めているところですが、全国大会の決議文にありましたように、「豊かな海の再生とつくり育てる漁業を推進する漁場環境」を整える一方で「災害に強く美しい漁業地域づくり」を推進する、そのような長期計画を作り上げねばなりません。厳しい財政状況の中ではありますが、漁業者の皆様が安心して操業でき、漁獲物をいち早く消費者のもとに届けることのできる漁港漁村の実現を目指した長期計画となるよう努力していきたいと考えています。そのため、様々な視点から多くのご意見をいただき、また斬新なアイデアを寄せていただければと思っています。

今後とも、会員の皆様方にはこれまで以上のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶



兵庫県立農林水産技術総合センター
水産技術センター所長
八橋忠良

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、清々しく良き新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

顧みますと、昨年はコウノトリの野生復帰を目指した放鳥、阪神タイガースのリーグ優勝の2年振りの実現等、県民に夢を与えた年でありましたが、一方ではJR福知山線の上り快速脱線事故の発生、ロンドンでの大規模多発テロの勃発等も大きく報道され、阪神淡路大震災発生後10年目の年でもあり、安全なまちづくりや危機管理の大切さを改めて痛感したところでありました。

このような中、当センターは地域に密着した技術開発、漁場環境・水産資源の把握とこれら情報等の提供、普及を通じた水産業振興を目指しています。

平成17年には、内海においては老朽化していた漁業調査船「ひょうご」に代わって新しく漁業・環境調査船「新ひょうご」（総トン数48トン、航海速度28・8ノット）が運航を開始しています。また、IT技術を活用して海の環境情報を提供する「漁場環境情報管理システム」を整備し、養殖ノリの色落ちの軽減を図るための珪藻赤潮予報の提供を開始するほか、内海6ケ所の水温等の動向や漁海況情報、各種調査結果等の情報を広く提供しています。

平成18年からは、内海においてウチムラサキやアサリ等の二枚貝の増養殖試験に取り組むとともに、これまで有害種のみが注目されてきた植物プランクトンを、餌料生物として捉えた新たな研究を開始する予定であり、海洋生態系における植物プランクトンの位置づけ等を明確にすることにより、イワシ、イカナゴ稚仔の漁況予測精度の向上に役立つものと期待しているところです。

但馬においては、漁業に甚大な被害を与えているエチゼンクラゲが、死滅後に、ズワイガニの餌料として利用されていることを確認しており、引き続いて漁具開発等を含めた被害防止対策に努めることとしています。また、ソデイカの卵塊が但馬海域ではじめて確認されたことは周知のことと思いますが、引き続き充実した調査を続行し、ソデイカの移動回遊生態のさらなる解明を図ることとしています。

さらに、内水面関係ではアユの冷水病対策等を一層進めるとともに、チョウザメに引き続きコレゴヌス（但馬ユキマス）等の新しい養殖魚種の開発に力を注いで参ります。

このほか、水産技術センターは各種試験調査研究を進める一方で、水産業を学ぼうと来訪される県民の方々が6000人を超える開かれた研修施設でもあります。私達は多くの人々に海や漁業の大切さを知っていただくことが、水産業の振興を図る上で側面的な大きな力になると考えています。お近くへ来られた際は、ぜひ一度お立ち寄り下さい。何か新しい発見があるものと信じています。

最後になりましたが、皆様方の益々のご健勝、ご活躍を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶

全国漁業協同組合連合会
代表理事会長
植村正治

全国の皆様、明けましておめでとうございます。

新年にあたり、全国のJFグループを代表しまして謹んでご挨拶申し上げます。

昨年は漁業界にとっては誠に厳しい年でした。燃油は異常な高騰をみせ、全国の漁業者は多大なコストアップにより、漁業経営は危機的な状況に追い込まれた上に、全国に大型クラゲが大量に来遊し、多大な漁具・漁獲物被害を受け、操業を早期に切り上げざるを得ない状況を招来しました。

これらに加え、永年にわたる資源の減少、魚価の低迷、大量に流入する輸入水産物の影響を受け、漁業経営は大変厳しい状況に置かれております。

昨年12月に香港で開催されたWTO閣僚会議では結論は先送りになったものの予断を許さない状況には変わりがありません。

このような状況の中、昨年11月には「JF全国漁協代表者集会」を開催し、これから3年間のJFグループの新運動方針を決定致しました。JF合併の実現、高齢化対策、組合員の経営安定対策、販・購買事業の改革とJFの経営対策、等々解決しなければならない問題が多くあります。本年はこれらの実践を開始する年であります。前途は決して平坦ではありませんが、これまでも協同の力で困難な時代を乗り切ってきました。JFグループ一丸となって山積する課題を解決していかなければなりません。

わが国の景気は回復基調にあると言われておりますが、水産界ではまだ回復のきざしは見えておりません。しかし、この難局を乗り越えた先には、必ず明るさが見えると確信しております。

世界に誇ることのできるわが国の魚食文化を子々孫々に伝え、これを支える漁業・漁村の持続的発展の基盤を構築する新たなスタートの年になることを祈念し、あわせて皆様方のご活躍と航海の安全ならびにご健勝をお祈り致しまして、新年の挨拶といたします。

新チョコー機軸に保障の万全期す

全国共済水産業協同組合連合会
代表理事会長
佐々木　護

新年、明けましておめでとうございます。2006年の年頭にあたり、本年が皆様にとって実りある年となることを心からお祈り申し上げます。

さて、わが国経済は、幅広い業種で企業収益が改善し、景気回復が続くと見込まれているものの、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には今後も留意する必要があります。また、生保業界にあっては依然として続く超低金利情勢や逆ザヤと新規・保有契約実績が低迷しており、損保業界では景気に支えられた国内市場の回復が認められるものの、価格・サービス競争が引き続き展開されております。

一方、漁業・漁村においては、産地魚価の低迷に加え、漁船燃油の高騰が漁家経済を圧迫しており、漁業就業者の減少と高齢化の進行にともない、漁業・漁協経営はさらに厳しさ増大の今日であります。これに対処するため、昨年11月に開催された全国漁協代表者集会で決定された運動方針により、漁協合併構想の完遂による自立漁協の構築と事業改革の実践によるJF事業利益〝V字回復〟の実現に取り組んでいくこととなりました。

このような事業環境のもと、JF共済（JF共水連）においては、〝海／輝く未来へ―JF共済3か年計画〟（平成17年度～19年度）の活動基本方針にある①組合員等利用者の保障の充実と地域住民への普及拡大、②共済事業基盤の強化、に基づき、これらに関連する主要施策とその具体策について、緊急性の高いものから順次取り組んでいくこととといたしました。

平成17年度に改正いたしました新チョコーを機軸に、厳しい事業環境にあればこそ、より組合員等の保障の万全を期すことを使命として元受JF等と一体となって強力な普及活動を展開することにより、事業量目標の必達に取り組んでまいります。さらに、JF共済の事業基盤を強化するため、JF共水連マネジメント改革の推進等事業実施体制の効率化をはかるとともに、コンプライアンス（法令遵守）・リスク管理態勢の整備・強化等、さらなる事業の健全性の確保につとめてまいる所存であります。

どうか新しい年におきましても、JF共済につきまして引き続き皆様の特段のご高配を賜わりますよう、切にお願いを申し上げる次第でございます。最後になりましたが、わが国漁業の明るい未来とJFグループがますます発展することを祈念いたしますとともに、皆様方のますますのご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

各地に農協市場館・農産物直売所オープン！

昨年11月1日、宝塚地区で「農協市場館　西谷夢市場」が、9日に尼崎地区で「農産物直売所　ほんまもん　園田の郷店」が、15日に川西地区で「川西南部農産物直売所」がオープンした。

尼崎地区は昨年6月に、川西地区は8月に仮オープンしていたが、11月に本格オープンとなった。

「農協市場館　西谷夢市場」では農産物のほか、米粉パンやお惣菜の販売も人気があり、レジを待つ長い列ができた。また「農産物直売所　ほんまもん　園田の郷店」は売り場に生産者の写真を展示。オープン初日は抽選会や餅つきも行われた。また「川西南部農産物直売所」はプレハブ施設を新たに設置。当日は地元野菜を使った豚汁の無料配布があり、熱々の豚汁をおいしそうに食べる買い物客の姿が見られた。

どの直売所も、売り場には地元で採れた新鮮な野菜や米、切り花のほかに加工品などが並び、「今後、より地域の個性を生かしながら、皆さまに親しんでいただける直売所づくりをめざしたい」と生産者は話していた。

新鮮な農産物を求めて数多くの人が集まった
（農協市場館 西谷夢市場）

http://www.zenchu-ja.org/

「終戦60年企画 沖縄平和の旅」に10会員生協 17名が参加

2005年11月28日～30日にかけて、「終戦60年企画 沖縄平和の旅」を実施し、10会員生協から役職員17名が参加しました。

初日は、首里城公園、そして嘉手納基地を見下ろすことのできる道の駅「かでな」からの基地見学、座喜味城址（世界遺産）見学を行いました。二日目は、まず県立平和祈念資料館を訪れ、そこで沖縄県ボランティアガイド友の会の吉嶺さんから戦争体験を聞き、資料館内、慰霊碑を見学した後、ひめゆりの塔・資料館へと向かいました。ひめゆりの塔資料館では、勉学に勤しむ女学生が次第に戦争のための教育を受けるようになった背景を知り、慰霊碑の前に立つと、ここで亡くなった数多くの女学生の無念さと悲しみに手を合わさずにはいられませんでした。その後、魂魄の塔へ向かい、沖縄戦線で亡くなられた多くの犠牲者のご冥福をお祈りし、参加者を代表して山路理事長（全労済兵庫）が献花をおこないました。次にむかった糸数壕（アブチラガマ）では、沖縄県ボランティアガイド友の会の安田さんから沖縄戦と壕（ガマ）の概要説明を受け、懐中電灯を手に壕の中へと入りました。壕の中で、説明を受け、一斉に懐中電灯を消し真っ暗な闇を体験しました。

参加者からは、「沖縄の地上戦の厳しさをあらためて知った。職場の仲間に伝えていくと同時に戦争は絶対にしてはならないと強く感じた」「広島・長崎とはちがう悲惨さが沖縄にある。戦争は人間性を失わせてしまう、この体験をどのように後世に伝えていくか考えていきたい」「ひめゆりの女学生の青春や夢、喜びが戦争によって失われた。それを思うと悲しい。教育の重要さを感じた」「自分の目で実際に見てショックを受けた。まだ胸が重苦しい」などの感想が寄せられるなど、終戦60年の節目に、あらためて平和の尊さ、大切さを実感した旅となりました。

糸数の壕（アブチラガマ）の中を見学する参加者

http://www.co-op.or.jp/jccu/

～「JFグループ兵庫組織強化構想」の取り組みについて～

“漁業者の幸せの実現のために”

本年4月から始まる合併JFの青写真づくりに全JFで参加しよう

本県の漁業経営は、就業者の高齢化・資源の減少・魚価安・原油高などによって年々厳しさを増しており、近年は毎年約150名(ほぼ1JF分に匹敵)もの漁業者が減少しているなど、JFや系統団体の経営も将来に大きな不安を抱えた状況にあります。

こうした厳しい現状を打破するため、平成16年10月にJF兵庫漁連内に設置された「JF組織強化委員会」において、約1年の歳月をかけて検討が重ねられ、「JFグループ兵庫組織強化構想」が策定されました。この構想は9月29日のJF兵庫漁連理事会並びに10月29日の兵庫県漁業協同組合長会議を経て、『漁業者のしあわせの実現』を目指してオール水産(全ての系統団体＋全てのJF)によって構想の実践に取り組んでいくことが確認されました。

JFグループ兵庫組織強化構想のポイントは、漁業者への最大の経済的メリットが提供できる組織として、全ての系統団体と全てのJFによる新しい経済事業体の設立を理想の姿とし、これを目指して、漁協合併促進法の期限である平成20年3月までにオール系統と参加JFによる「経済事業改革JF」の設立に取り組むところにあります。

また、この組織強化構想では、参加JFを募る際に『この指とまれ』方式を採ることとしていますが、まずは本年4月に開始する「経済事業改革JF」の青写真づくりには全JFに参画していただき、1年余りの期間をかけてオール水産で策定した青写真を判断材料として、平成19年6月から10月の間に「経済事業改革JF」への参加を決定していただくこととなります。

このためオール系統は県の協力を得て、来年4月の青写真づくりへの全てのJFの参画を目指し、効果的な構想の普及活動を展開していくため、「JFグループ兵庫・事業改革推進本部」を設置し、組織体制図に示すような推進組織としました。

来年4月からの青写真づくりには、JFの組合長を始め役職員の皆さんに直接ご参画いただく予定としていますが、3月までの普及活動期間については、JF職員で組織する「浜の声委員会」を設置し、浜の意見を聴取することとしています。また、組織強化構想の推進事務局として、オール系統の専従職員等で構成する「JFグループ兵庫・事業改革推進本部推進室」(略称：「事業改革推進室」)を設置しました。

平成18年3月の県下全JFの「経済事業改革JF」の青写真づくりに参画していただくために、推進本部は普及活動を粘り強く推し進めて参りますので、関係者の皆さんのご理解・ご協力をいただきますようお願いいたします。

なお、推進本部では、今後、組織強化構想の普及推進に関連する事項について、Eメール又はファクシミリ等によって関係先に随時情報提供していく予定です。

[JFグループ兵庫・事業改革推進本部　推進室]

(略称：事業改革推進室)

設置期日：平成17年12月15日

設置場所：神戸市兵庫区中之島中之島2-2-1　県立水産会館3F

TEL 078-652-3445・FAX 078-671-6685

構成員：推進マネージャー(室長)…　山口　徹夫(JF兵庫漁連常務理事)

シニア推進員……　田中賢太郎(JF兵庫信漁連営業部次長)

シニア推進員……　柴田　昌彦(JF兵庫漁連役員室長)

推進員……　佐藤　泰弘(JF兵庫漁連組織統括本部組織部主任)

推進員……　西詰　宗弘(JF兵庫漁連組織統括本部組織部部員)

推進員……　金城　雅子(JF兵庫信漁連営業部業務課職員)

行事予定

＜変更になる場合があります＞

JF兵庫漁連

1月17日(火)	第5回のり入札会
19日(木)	10:00～ 全国漁連・信漁連総務担当者会議(コープビル)
25日(水)	大輪田塾
26日(木)	13:00～ 第14回理事会(中会議室) 資材事業審議会(予定)
27日(金)	10:00～ H17年度漁協簿記実務研修会(大会議室)
28日(土)	第6回のり入札会
2月7日(火)	第7回のり入札会
14日(火)	大輪田塾視察(赤穂市)
21日(土)	第8回のり入札会

JF兵庫信漁連

1月11日(水)	香住加工恵比寿講 10:00～
19日(木)	全国漁連・信漁連総務担当者会議(コープビル)
27日(金)	13:00～ 理事会

JF共水連兵庫

1月13日(金)	13:00～ 近畿ブロック所長代理会議(大阪)
18日(水)	13:00～ 経営企画会議(コープビル)
20日(金)	西浦地区推進協議会研修会(JF育波浦)
24日(火)	南浦地区推進協議会研修会(JF福良)
24日(火)～25日(水)	近畿ブロック企画推進検討委員会(舞鶴)

内海漁保

1月24日(火)	高砂市連海難事故防止講習会
26日(木)～27日(金)	漁船保険等損害審査実務研修会(東京)

但馬漁保

1月12日(木)～13日(金)(予定)	合併作業部会(東京)
24日(火)～25日(水)(予定)	合併作業部会(東京)
26日(木)～27日(金)	漁船保険等損害審査実務研修会(東京)

兵庫豊かな海づくり協会

1月10日(火)	10:00～ 協会部長課長会議
18日(水)	16:30～ 二見臨界工業団地企業連絡協議会通常総会(南二見会館)
24日(火)～25日(水)	西日本種苗生産機関連絡協議会場所長会議(沖縄)

兵庫県

1月13日(金)	15:00～ 瀬戸内海海区漁調委(県民会館)
16日(月)	16:00～ 常任委員会
24日(火)	14:00～ 但馬海区漁調委(但馬漁業センター)
25日(水)	10:00～ 水産主務課長会議(農林水産省)
26日(木)	13:30～ 水産関係試験研究機関長会議(農林水産省)

その他

1月12日(木)	11:30～ 播磨漁友会臨時総会(割烹森富)
14日(土)	13:00～ 都市漁村交流を考えるシンポジウム(ポートピアホテル)
15日(日)	第43回淡路農林水産祭(伊弉諾神宮)
19日(木)	11:00～ 海苔関係漁連会長会議(JF全漁連)
27日(金)	17:30～ 鹿ノ瀬会総会
30日(月)	15:00～ 大西二三夫氏　黄綬褒章受章祝賀会(ホテルキャッスルプラザ)
3日(金)	10:30～ 第30回淡路のり品評会(淡路水産センター)
14日(火)	11:00～ JF江井ヶ島・魚住合併調印式(グリーンヒルホテル明石)

TOPICS

平成17年度 兵庫県JF役職員研修会開催

去る平成17年11月28日、グリーンヒルホテル明石「喜春の間」において、県下各JF役員等125名が参加して、兵庫県JF役職員研修会が開催されました。

本研修会は急速に変化する社会情勢のもと、漁業環境は年々厳しくなり、JFの経営はますます複雑かつ深刻化して今後の経営動向並びに今求められている中、経営改善に向けての様々な取り組み等について研修し、JFの経営者として組織・事業の改善を図る等、JFの健全な発展に資することを目的として、平成15年度よりJF役員研修会として3ヶ年計画を立て、初年度の平成15年度は理事監事の各々の職務についての研修、第2年度の平成16年度は財務諸表の研修、第3年度の本年は経営の考え方についての研修ということで、各JF幹部職員を加えて、今後の経営動向並びに今求められている経営改善に向けての様々な取り組みについて研修いただいているものです。

主催者であるJF兵庫漁連 丸一会長の開会挨拶、兵庫県水産課藤澤課長補佐よりの来賓挨拶の後、JF全漁連 JF強化本部合併推進部部長 市村隆紀氏による「漁協の組織・事業・経営の方向について」および元気塾主宰・経営ジャーナリスト 疋田文明氏による「元気な組織の元気な経営」という2つのテーマで、11時から15時30分までの長時間に亘り研修が行われました。

テーマ1

「漁協の組織・事業・経営の方向について」

① 11.19「JF全国漁協代表者集会」では何が決まったか

② 燃油高騰対策の状況について

③ 漁業・漁協の環境変化をどう捉えるか

④ 漁協経営の状況と改革課題（兵庫県の漁協の状況）

⑤ 販売・購買事業改革の取り組み

以上の5項目について、具体的にわかりやすく講習いただきました。

テーマ2

「元気な組織の元気な経営」

ここ数年の取材活動を通じて痛切に感じることは、自社のクライアントに対しての「提案力」が強い企業は元気がいいということです。これは、製造業、小売業、サービス業いずれにも共通しています。顧客満足度を高めるために、いまもっとも求められているのが、「提案力の強化」です。「提案力」に「接客力の強化」「情報・判断・決定・実行の共有」「価格政策の見直し」「人を活かす」といった切り口をプラスして、元気な企業（組織）の元気な経営を事例研究のスタイルで解説していただきました。

受講されたJF役員の方々も最後まで熱心に受講されました。

急速に変化する社会情勢のもと漁業環境は年々厳しくなり、JFの経営はますます複雑かつ深刻化しております。本研修会を通じて、漁協の組織・事業を改善して頂けるものと考えております。このような研修事業が、今後、ますますJF役職員の資質向上の一助となり、JFの健全な発展に資することができるようになればと願っております。

～兵庫県からのお知らせ～

「ひょうご農林水産ビジョン2010の見直し」への意見募集

食の安全・安心への関心の高まりや国際化の進展、加速化する農政改革など様々な情勢変化や毎年の取り組みの評価・検証を踏まえ、新たな農林水産ビジョンを策定します。

◆募集期間：**1月23日(月)**まで

◆詳しい内容は県ホームページ⬇
http://web.pref.hyogo.jp/nrnousei/shingikai/index.htm

◆問い合わせ先：県総合農政担当課(国際化・農林水産政策担当)

TEL078-362-9193

編集後記

あけましておめでとうございます。“何年振り”“観測史上初”などの活字が踊った去年の暮れでしたが、寒さに負けない元気な誌面づくりに努めていきますので、本年も拓水の購読よろしくお願いします。

堅実な組合経営で、安心して漁業に取り組める環境づくりを

ウチの漁協！

No.33

JF岩見

兵庫県南西部に位置する御津町は、町の3分の2が山林であり、海と山が接近した独特の地形が印象的です。また、綾部山梅林、世界の梅公園、近畿随一の遠浅海岸である新舞子海岸などの観光スポットを備えた、見所の多い地域でもあります。この御津町にある岩見漁業協同組合では、主に底曳き網漁、船曳き網漁、小型定置網漁の3種類の漁が行われています。ほとんどの漁業協同組合と同じように、岩見漁協も昔の定置網主流の漁業から、船の性能の進化とともに、底曳き網漁や船曳き網漁といった漁法へと主流が移り変わってきました。しかし、数は減ったものの、高齢となってからでも続けられる定置網漁は、今もしっかり岩見漁協に根づき、伝統漁法として受け継がれています。

岩見漁協で獲れる代表的な魚は、車エビ、シャコ、ワタリガニといった甲殻類、さらにアナゴ、カレイ、ヒラメなどです。岩見の漁場の海底は半砂、半泥の状態であるため、このような底質を好む甲殻類やアナゴなどがよく獲れるというわけです。しかも、これら岩見を代表する海の幸は、祭りなどの地方の伝統行事と深く結びついています。例えばこの地域には、秋祭りの際に必ずシャコを振舞うという風習が残っていますが、それは秋祭りと花見の時期にシャコが一番おいしくなるということを地元の人がよく知っているためです。当然、需要が高い春と秋のシャコには高値がつくため、組合員にとっては貴重な魚種だといえます。また、岩見産のアナゴも高値がつく魚種のひとつです。岩見漁協をはじめ、瀬戸内の播磨灘で獲れるアナゴは全国的にもよく名が通っており、韓国などから輸入されるアナゴとの味の違いは、誰もが認めるところですね。昔はこれらに加えて、東京などで寿司ネタとして人気があったコノシロなどの回遊魚にも高値がついていましたが、現在その魚価はかなり下がってしまいました。その点、車エビ、シャコ、カニ、アナゴなどは、日本人の舌に合い、人気が高いことから値段が下がりにくいという良さがあるのです。

さて、岩見漁港では、朝6時30分にもなると、仲買人の皆さんがせりを行う威勢のよい声が響き渡り、朝市が始まります。この朝市では、岩見漁協の組合員が獲った魚はもちろん、坊勢漁協、室津漁協などからも魚が集まってきます。その魚の種類や値段を見て、組合員の皆さんは、その日に獲る魚や漁の場所を決めるそうです。"今一番売れる魚は何か"という見極めは、漁師の知恵の出しどころとなっているようです。また、岩見の朝市は漁港内で行われることから、獲れたばかりの魚をすぐに売ることができる点も大きな魅力。新鮮さが命の魚介類を市場に持って行くことなく、その場で売ることができることは、組合員にとって非常に大きなメリットです。そのため、規模的には決して大きいとはいえない岩見漁協ですが、朝市を岩見の貴重な財産として、長年守り続けているのです。

漁業を取り巻く状況は時代とともに変化していますが、岩見漁業協同組合は朝市をはじめ、組合としての事業をしっかりと行い、安定した経営を心がけています。これは、市場をはじめとする組合の財産の管理、燃油・氷・漁具の販売他、マリーナ事業の共同経営等、漁業許可の保有などの安定した経営があってはじめて、組合員が安心して漁業に従事できるという考えがあってのこと。後継者不足、組合員数減少という難題はありますが「堅実な姿勢を崩すことなく組合運営を行うことが組合の発展につながる」というのが、岩見漁業が昔から貫いてきた"伝統の思い"なのです。

＜漁協メモ＞

岩見漁業協同組合
代表理事組合長　井上　仁
組合設立日：昭和24年9月2日
組合員数：正組合員29名、准組合員162名／計191名
漁獲数量：365.7トン

拓水 TAKUSUI 1 January

JF 発行人 兵庫県漁業協同組合連合会　発行所 兵庫県漁業協同組合連合会 (財)兵庫県水産振興基金
〒652-0844 神戸市兵庫区中之島2-2-1　TEL 078-652-3444　FAX 078-671-6685
URL http://www.jf-net.ne.jp/hggyoren/

2006年1月10日発行　通巻591号　昭和32年10月18日 第3種郵便物認可　定価80円(本体76円)